

BMC 海外派遣報告書

蛋白質研究所 蛋白質構造形成研究室
高分子科学専攻 D1 小沼剛

参加学会 : 23rd International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems (ICMRBS)

場所 : Sheraton San Diego Hotel & Marina (CA, USA)

派遣期間 : 2008 年 8 月 24 日 ~ 2008 年 9 月 2 日

今回、BMC プログラム・海外学会発表派遣の御支援により、アメリカのサンディエゴで開催された第 23 回 ICMRBS に参加させていただきました。学会海上は海辺に位置し、外は風が涼しく過ごしやすいくところであり、西海岸に沈む美しい夕日を眺めることもできました。

講演では、生体分子のダイナミクス解析に関する発表が多くあり、静的な構造だけでなくタンパク質の動的な性質をいかに捉えるか、また遭遇複合体のような過渡的な構造をいかに捉えるか、という問題に対するアプローチが今盛んに研究されていると感じました。さらに、常磁性プローブや計算化学等と組み合わせた解析や、変性タンパク質への応用など、ダイナミクス解析における NMR 法の有用性が広がっていることを実感することができました。また、自分の研究テーマに関連したアミロイドのセッションでは、著名な先生方の最新の研究内容を直接聞くことができ、今後の研究に対して非常に有益な情報を得ることができました。

ポスター発表で、私はアミロイド線維形成中に形成される中間体を NMR で検出する新しい方法を報告しました。ポスターを前に議論に参加して下さった先生方ならびに学生の皆さんは、ほぼ全員がアミロイド関連の研究を行っていたことから、内容により踏み込んだ議論をかわすことができました。自分の研究に興味を持ってくださる方が多かったので、とても嬉しかったですし、今後の展開に関しても多くの助言や提案をいただき、大きな励みになりました。自分のポスターの周りにはアミロイドに関する研究テーマが多く見受けられ、非常に競争が激しい研究分野であることを認識する一方で、お互いに実験の難しさや問題点に関して話し合い、有益な情報交換をすることができました。

最後に、この機会を与えて下さった BMC プログラム関係者の皆様に深く感謝の意を表します。また、学会期間中にお世話になった後藤祐児教授および櫻井一正助教にこの場を借りて御礼申し上げます。

2008 年 9 月 30 日